



山梨県流通センターニュース

編集・発行 協同組合山梨県流通センター（中央市山之神流通団地2-6-1）
TEL (055) 273-4711 FAX (055) 273-4713



新たな団地の再整備を目指す

5月26日 第45回通常総会開く

協同組合山梨県流通センターの第45回通常総会は、5月26日（金）流通会館大会議室で開かれ、組合員60人（委任状出席含む）が出席。平成28年度の事業報告、収支決算、平成29年度事業計画、収支予算案などの提出議案は全て承認、可決された。

28年度の事業報告では、第1に新たな団地の再整備事業のため、組合諸施設の老朽化に伴う未来検討特別委員会で組合の将来像を討議し、今後の組合運営の参考にするため4団地の視察を行ったことを報告。

第2に収益力の強化と財務基盤の充実に向け、エアコンの入れ替え、LED化により光熱費が約38%削減されたこと、また設備の更新により会議室・展示場の利用が増加し、設備投資効果が現れたことを報告した。

第3に組合組織の活性化推進の新たな取り組みと

してBCPマニュアルを作成し、災害発生時にどのような行動を取れば良いか等、緊急時の体制整備を行うこととした。

可決された29年度事業計画は、第1に当組合の5年後、10年後のあるべき姿を継続して協議していくことを挙げ、第2に組合共同事業の充実と組合組織の活性化をどう実現するかを検討、第3に企業活動における県内最適地として価値を高めるため、BCP対策マニュアル等の周知・徹底を図る、第4に組合諸施設の整備・補修として防犯監視カメラの入れ替えを掲げ、他の組合諸施設も老朽化による破損・故障等の増加が予想されるので、計画的に修繕を実施し、設備を更新することにより、団地内の安全・安心な立地環境の維持に取り組むこととした。

組合保有資産の有効活用の検討

未来検討
特別委員

ブランド力強化に取り組む



29年6月から未来検討特別委員会の2期目がスタートした。まずは1期目の2年間で振り返りながら、今後、未来検討特別委員会の取り組むべき課題について記載する。

平成27年7月に、A、Bの2つのグループに分けて、それぞれ数回にわたり協議したが、両グループとも、流通会館の使用及び旧新峰の建物の建替えが今後の課題として挙げられた。旧新峰の建物にはアスベストが使われていることもあり、アスベスト処理についての勉強会も開催した。

平成28年10月から11月に掛けては、県外の4団地（鹿児島、福岡、盛岡、青森）を視察し、資産活用、ネーミングなどについての取り組み状況をお聴きした。

平成29年3月の理事会で2年間の委員会での活動報告が発表され、まとめとしては、次のとおりである。

「流通会館及び旧新峰更地後については、個々の企業が発展する環境を整備するため、安全安心を確保するBCP対策の拠点とする建物について検討する。

現在の収益が確保できる財務状況では組合員は、新たな費用負担がない中で資金計画を立てることが可能である。そのためには5年計画で計画を立ち上げ、10年程度で返済できる建物規模が必要であり、着手するべきと考える。

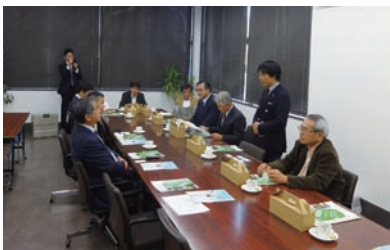
今後の未来検討特別委員会の検討事項については、

A、流通会館及び旧新峰土地有効活用の検討について

B、組合のイメージ作戦 組合員企業の業務内容は大幅に変化し、第2世代、第3世代と変わり、組合員の結束をするためにもメモリアルが必要となる。その一環として組合の将来像をイメージできるようなネーミングの検討を行うことが必要である」

以上の検討事項を踏まえ、2期目に取り組む課題が明確となったので、メンバーを2つのグループに分け、Aグループ（坂本吉彦リーダー）は、旧新峰土地の有効活用についての取り組み、Bグループ（前田治基リーダー）は、当組合ブランド力強化のためのネーミングの検討を行うこととなった。

今後は、精力的に委員会活動を行い、2年後には答申が出される予定である。



電気代の削減年間190万円

街路灯のLED化が完了

団地内街路灯125箇所でのLED化は、平成26年度から順次進められ、平成26年度は15箇所、27年度は19箇所、28年度は91箇所を全て300W相当のLED照明器具に交換し完了した。

総工事費は2,200万円、電気代の削減効果は年間約190万円を見込んでおり、団地内環境はより快適な状況へと進化している。



災害防止と被害の軽減を図る

釜無川 線状降水帯豪雨の来襲に備える

前号（No.306号 平成29年3月25日発行）でもお知らせした通り、組合は、平成28年度の重要事業の1つとして、BCP対策を掲げ、組合BCPマニュアル（正式名称は、組合員企業連携事業継続計画（BCP）マニュアル）の策定外、各種取り組みを実施した。最近では、7月4、5日と九州北部の福岡・大分地方を線状降水帯による豪雨が襲い、大きな被害が出たばかりである。当団地の近くにも釜無川が流れ、線状降水帯による豪雨が発生すれば、決壊・洪水が起こる可能性もあり、大災害にも繋がりがかねない。大災害があったとき、企業、組合がいち早く復旧できるかが、重要な問題であり、BCPマニュアルの真価が問われることとなる。

1、BCPマニュアルの策定

①組合員企業連携事業継続計画（BCP）マニュアル
このマニュアルは、流通センター全体における防災対策に必要な事項を定めており、災害の防止と被害の軽減を図り、早期の事業継続を可能とすることを目的としているが、まずは、組合員企業の対応を優先し、他社の支援が必要か、組合としての活動が必要な場合にマニュアルに沿った活動が求められるものである。



②事業継続計画（BCP）マニュアル
このマニュアルは、組合事務局用のものであり、①のマニュアルとも重複する部分も多いが、特徴としては事務局の重要業務を抽出しておいて、それらの業務をいち早く復旧するために、策定されたものである。

2、防災ハンドブック、非常時対応メモ（ポケットマニュアル）の作成

団地内全従業員用に配布するために作成された。防災ハンドブックは、防災についての基礎知識や対処方法が掲載されており、非常時対応メモ（ポケットマニュアル）は、従業員が常に携帯（三つ折り）し、災害伝言ダイヤルの利用方法が書かれ、災害が起きたときの行動基準や会社・上司との連絡方法などが記入できるようになっている。



3、緊急ダイヤルマップ（改訂版）の作成

平成23年10月に作成したものを手直ししたものである。初版はダイヤルマップの裏面が団地内の災害時防災マップであったが、改訂版は液状化ハザードマップと国土交通省が2017年2月に作成した富士川洪水浸水想定区域図に変更となっている。



4、防災倉庫の設置

流通会館裏に防災倉庫を設置した。主な備蓄品は次のとおり。使い捨てベスト、レスキュー救急セット、カセットコンロ、災害用食器セット、インバーター発電機、ハロゲン投光器セット、救助工具袋セット、トランシーバー、無電源浄水器、非常用土のう、シオルダー型メガホン、折りたた



み式リヤカー、水中ポンプ、組立式トイレ、トイレ TENT、トイレセット、非常用給水袋、簡易寝袋、ガス発電機、災害対策用ナベ等

5、保存食・保存水の備蓄

①保存食・保存水
流通会館書庫内に保存食600食余り、クラッカー280個、保存水480本備蓄、毎年度買い増し予定である。
②受水槽からの引水
流通会館受水槽（有効容量18.0m³）から屋上高架水槽へ揚げる揚水管の途中に蛇口を付けて、緊急時に水を摂取することにした。



6、災害連絡網の整備

現在、組合が加入しているセコム安否確認サービスを利用して、緊急時に組合員の安否確認・被害状況の把握や組合が災害対策本部を立ち上げたときに、流通会館に参集することを目的に要員登録をお願いし、災害連絡網の整備を進めている。

7、BCP推進に関する協定書の締結

団地の早期復旧を推進することを目的に、組合は組合員の中で、食品、食品関連資材、衛生資材、救急資材などを扱っている企業（10社程度）と、BCP推進に関する協定書の締結を推進している。

8、組合員へのBCP策定支援

組合員の中で、BCPマニュアルの策定がまだ済んでいない企業については、組合でコンサルタントの紹介などを行う。また、防災グッズ取扱企業の紹介も行う。

9、BCPマニュアル周知のための説明会の開催

6月27日（火）午後1時30分から流通会館大会議室で、「団地の防災・減災対策と組合BCPマニュアル策定及び活用についての説明会」を開催。経営者と担当者約50人が集まった。

講師は、山梨産業支援機構の専門家派遣事業で指導的に関わった労働安全コンサルタントの荻原正宏氏。防災・減災の基礎知識に始まり、最近の鬼怒川洪水、糸魚川大火などの災害事例、BCPの必要性、県の防災対策などの説明があったあと、組合BCPマニュアルの条文と関連の様式・別表の説明があり、組合、組合員共に助け合う必要性が強調された。

オフィス家具等の転倒防止対策については、具体例をプロジェクターから幾つか例示・説明があり、また、組合員用マニュアル項目については、各社における重要業務の洗い出し・被害想定・バックアップなどが重要であるので、日頃から抽出しておいて欲しいとの呼びかけがあった。

組合は、防災ハンドブック、非常時対応メモ（ポケットマニュアル）を団地従業員全員に配布・活用することをお願いするとともに、防災用品の斡旋もした。

なお、組合員の安否確認・被害状況の把握や災害本部設置時の要員登録をお願いしており、9月1日現在数社を残すばかりとなっている。



新 入 社 員 紹 介

(9社25人が仲間入り)

氏 名 会 社 名 趣 味						
	笠井 未来 株アットブレイン ゲーム レジン細工 チャレンジしてみたいこと 車を買って痛すぎない痛車を作る	石原 隼人 株アットブレイン 映画鑑賞 一人旅	古屋 雅渡 甲信商事株甲府支店 カラオケ 野球観戦 ゴルフ	清水 海里 株甲府情報システム 服を見ること 難しいことにも積極的に挑戦していきたい。	若松 洋希 株正直堂 カラオケ 船旅	高野 祥 株正直堂 ダンス 華道
氏 名 会 社 名 趣 味						
	長谷川 琴巳 株正直堂 音楽鑑賞 一人旅 チャレンジしてみたいこと	杉山 諒 株スズケン甲府支店 スポーツ観戦 会社を引っ張る人間になる	桑原 裕太郎 株羽中田自動車工業 綺麗な硬貨集め 47人(都道府県)の彼女作り	竹野 鷲太 株羽中田自動車工業 歌 ボルダリング のど自慢大会で優勝	登川 詩音 株羽中田自動車工業 魚釣り ツーリング 世界の魚を釣る	入倉 輝成 株羽中田自動車工業 ドライブ 旅行 大型免許取得
氏 名 会 社 名 趣 味						
	小田 賢也 株羽中田自動車工業 ドライブ 腹筋を割る	古矢 岳大 株羽中田自動車工業 ツーリング バンジージャンプ	武川 直哉 株羽中田自動車工業 ドライブ 大型免許取得	保坂 淳 株羽中田自動車工業 ツーリング 山登り	加賀美 祐樹 マコト医科精機株 野球 ゴルフ ボルダリング	深沢 由香 マコト医科精機株 写真 乗馬
氏 名 会 社 名 趣 味						
	大久保 尚紀 株マルモ 音楽ライブに行く 自分の城を築く	千川 雄一 株マルモ 野球 スカイダイビング	米山 透 株マルモ ドライブ ボカールレッスン	土橋 康平 株マルモ 音楽を聴く 日本一周	三澤 ころろ 株渡辺商店 映画 ショッピング 世界一周	中山 七星 株渡辺商店 読書 観劇 月面着陸
氏 名 会 社 名 趣 味						
	土橋 幹 株渡辺商店 車 音楽 チャレンジしてみたいこと ヒッチハイク					

スピーチなどを体験する

新入社員研修 実習で知恵身につく

平成29年度新入社員研修が4月6日（木）・7日（金）の2日間、流通会館会議室で開かれ、団地内企業4社から8人が参加した。

講師はコミュニケーションアカデミーの鬼塚啓介先生。新入社員たちは初めに、社会人としての基本である「挨拶や態度、表情、言葉づかい」の重要性を学んだ。また、学んだビジネスマナー・話法を使いながら電話応対や名刺交換、接遇対応のロールプレイングによる実習を行い、知恵を身につけた。

ロールプレイングやスピーチなど、人前に出て発表する機会が多く、受講者たちからは、「知識として頭に入れるだけでなく、実践したので分かりやすかった」「実践してみるととても難しかった」等の声が聴かれ、苦戦しながらも熱心に学ぶ様子が

見られた。

開講式で栗山理事長が話されたように、これから色々な困難があると思うが、それに打ち勝って、一生懸命頑張ってもらいたい。



ウェルカムパーティーに8人参加

4月8日 新入社員第一歩踏み出す

第4回新入社員ウェルカムパーティーが4月8日（金）に焼肉ほくりで開かれ、4社から8人の参加があった。ウェルカムパーティーでは、組合が行っている事業についての理解と懇親を深めていただいた。

研修や新入社員ならではの悩みについて話は盛り上がり、企業の垣根を越えた交流ができ、有意義な会となった。



フォークリフト講習に8人が参加

安全運転技術、4日間学ぶ

組合の認定職業訓練コースとして人気のフォークリフト運転技能講習会が6月17日（土）、18日（日）、24日（土）、25日（日）の4日間、湯村自動車学校で開かれ、5社から8人が参加した。

11月にも講習会を予定しているので多くの方に受講いただきたい。



にぎやかにバスツアー楽しむ

10社の37人ディズニーランドへ



組合員、準組合員及び従業員とそのご家族を対象にしたディズニーランドバスツアーを6月24日（土）に実施した。参加者は10社から37人、小さな子どもたちが多く、にぎやかなツアーとなった。

天候に恵まれ、とても暑い日だったので大変だったが、それぞれに楽しい思い出になったようだ。

来年度も今年度同様の企画を計画しているので、今回参加出来なかった方は次回ご参加ください。

震度7の大揺れ体験

オオキ起震車訓練 組合員も参加

6月30日（金）、組合員(株)オオキ様のご厚意により、同社で行われた起震車体験に組合員・準組合員も一緒に参加させていただき、震度7の地震が来たときにどのような状態になるか体験した。

震度7の揺れになると、立つことはおろか、机の下に頭を入れて座り、机の脚に掴まっていることすら大変なのだ実感した。

近年、日本全国で地震が起きており、山梨県でもいつ大地震が起きてもおかしくないと言われている。今回の体験は、参加者たちにとって改めて防災意識を見つめ直すきっかけとなったようだ。いざという時も慌てずに行動しよう。



団地の安全バッチリ

中央市 歩道上の樹木伐採

中央市へ依頼していた団地北側の市道の歩道上に植えられている樹木の伐採が行われた。

樹木及び雑草が繁り、非常に危険な箇所であったため、環境美化の改善とともに団地の安全も図られた。

before



after



山崎製パン株式会社武蔵野工場甲府営業所



会社名：山崎製パン(株)武蔵野工場甲府営業所

所 長：川崎正勝

住 所：中央市山之神流通団地 2-2-1

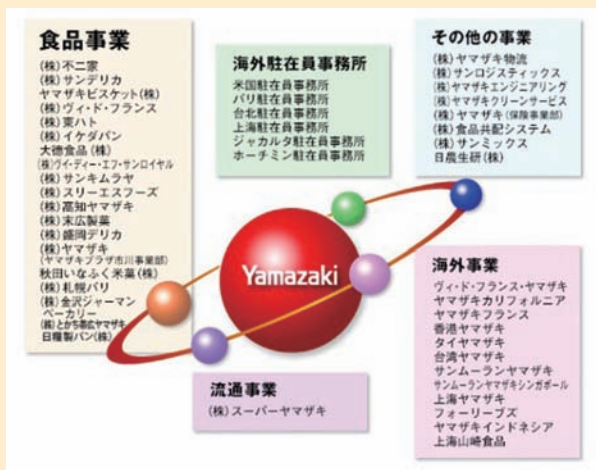
従業員：140 名

電 話：055-273-6833 (代)

主な事業内容

パン、和・洋菓子、調理パン・米飯類の製造・販売、製菓・米菓の販売、ペーカリーの経営、コンビニエンスストア事業

グループ関連会社



取扱製品のご案内



会社活動

お客様の笑顔と信頼にお応えするためにベストクオリティー・ベストサービスをお届けします

食品企業にとって、食の安全を守るための品質管理はとても重要な課題の一つです。ヤマザキは、食の安全・安心を確保するため、「AIBフードセーフティ指導・監査システム」を機軸とした万全の体制を敷いています。



秋のわくわくプレゼント
 毎週抽選で総計 36,000 名様に
 当たる！ 9/1 金～11/15 木
 応募期限
 11月19日 当日消印有効



TBS 日曜劇場「陸王」コラボ商品



デイリーヤマザキ
 ヤマザキデパートストア



お伝えしたいのは「食べることの大切さ」です。



私たちは、「ヤマザキマーケットクルー」です。

店頭にて「ラブローフ募金箱」を設置して募金活動を行っています。



組合員・準組合員変更事項

組合員名	変更前	変更後
マツザワホールディングス(株)	(株)エムホールディングス	マツザワホールディングス(株)
高瀬物産(株) 甲府支店	支店長 向笠光司	支店長 平山孝治
芳賀厚		脱退
(株)コーエイ	代表取締役 小田切寛	代表取締役 東元真一
(株)アートウイズ	(株)エイ・ティー・エル 代表取締役 河田靖夫	(株)アートウイズ 代表取締役 松本哲志

準組合員の加入・脱退

準組合員名	加入・脱退別	住所
拓大運輸(株)	加入	流通団地3-6-3
東京エレクトロニクステクノロジーズソリューションズ(株)	加入	流通団地北3番地
愛知時計電機(株)	加入	流通団地2-5-2
(株)ネオスペース	脱退	流通団地2-5-3

お知らせ

第7回社員交流会

日時 平成29年12月8日(金)
場所 流通会館

事務局日誌

～4、5、6、7月の主な会議等～

- ◆4月 4日 正副理事長会議
6～7日 新入社員訓練
7日 新入社員ウェルカムパーティー
11日 生活改善委員会
12日 リサイクル・一斉清掃日
13日 L o M A の会総会
17日 職業訓練補助金説明会
24日 研修・厚生委員会
- ◆5月 7日 L o M A の会ゴルフコンペ
9日 正副理事長会議
10日 組合会計監査
12日 リサイクル・一斉清掃日
12日 理事会
18日 北ブロック懇談会
26日 組合通常総会
- ◆6月 6日 正副理事長会議
12日 リサイクル・一斉清掃日
13日 ボウリング大会予選(西・南B)
13日 生活改善委員会
16日 ボウリング大会予選(北B1)
17～18日 フォークリフト免許取得講習
19日 理事会
22日 ボウリング大会予選(北B2)
22日 L o M A の会定例会
24日 東京ディズニーランドツアー
24～25日 フォークリフト免許取得講習
27日 組合BCPマニュアル説明会
27日 ボウリング大会予選(東B)
- ◆7月 1日 L o M A の会山梨、静岡4卸団地情報交換会
4日 正副理事長会議
7日 南ブロック懇談会
11日 ボウリング大会決勝
12日 リサイクル・一斉清掃日
14日 廃蛍光管収集
18日 センターでバザール出店者会議
20日 東ブロック懇談会
21日 集団健康診断(28日まで)
21日 献血
25日 未来検討特別委員会
27日 北ブロック懇談会
28日 納涼懇親会(於:甲府富士屋ホテル)

かいがね

ここ数年、何人かの知人やそのご家族が知らぬ間に亡くなっていたことに気づかされる。私は新聞の死亡記事欄には毎朝目を通してはいるつもりなのだが全く気づかず、否、事實は新聞の死亡記事欄への掲載がなかったため知る由がなかったと言うのがほとんどだ。

会社員時代の上司や高校の恩師、友人やそのご家族だったりだが、いずれも亡くなった当人の遺言で自分の葬儀は誰にも知らせず家族だけで、ということだったらしい。だからどの場合もその人が亡くなったのを知ったのは大分時間が過ぎて、それも偶然に風のうわさで知ったというようなことが多い。

事情はさまざまだろうが、人の終焉の在り方に対する考え方が昔と変わってきたのは事実だろう。そして、私自身もいずれ自らの身仕舞を家族に伝えておこうと考え始めており、延命治療はせず、葬儀は質素に家族だけで弔ってくれればよいと願うつもりである。

こんな考えを友人に話すと、ほとんどが共感してくれる。理由の一つは「家族」や「家」についての考え方が昔とは違い、「家」を何代もつないでいくことの意味が重要でなくなって、葬儀の持つ、故人の後継者に誰がなるのかを公に示すデモンストラーション的色彩が希薄になって来たのだろう。だから、殆ど悲しみのない人たちがそこそこの香典を持って形だけの焼香をする儀式に価値を見出さなくなったのだ。

数年前に亡くなった中学時代の同級生は、生前、自らが亡くなったときは葬儀もせず、遺骨は海に散骨することを強く希望して、子供がいなかったので奥さんが一人でそれらを全て済ませたそうである。そこには、驚き以上に故人と奥さんの強烈な意志とむしろ深い愛情が感じられ、何やら羨望の思いさえ生じたのを覚えている。

本来、「死」は悲しむべきものではないのだ。宗教の究極は安らかな死と苦しみのない死後の世界を願うことだろう。私自身、僧侶のように達観はしていないが、おそらくは地獄は存在しないと考えるので、死への恐怖は大分薄れている。

そんなわけで、先日、ウォーキング仲間信州佐久にあるピンコロ地蔵へのお参りウォークを提案したところ、大勢の賛同を得て実施することができた。言うまでもなく、ピンピンコロリと終わりを迎えられるようお祈りしたわけだが、今のわれわれ世代の願いはそれに尽きると言っている。子供達に迷惑をかけず、例えば、ある朝、なかなか起きてこないで起こしに行ったら布団の中で亡くなっていた、というのが理想である。

老人の介護が大変な状況で、人生適当なところで、むしろあっさりとお安らかなお迎えがあるというのが人生の終わり方とすれば誠に願わしいのであり、決して悲しいことではない。命が尽きるのは自然の道理であり、神も仏もその道理を変えることは出来ないのだから。

(M)